作成日：西暦 2026 年 8 月 20 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：凍結融解胚移植における移植手技の改良が着床率および臨床妊娠率、流産率に与える影響に関する単施設観察研究

本研究はまるた ART クリニックの医学研究倫理審査委員会で審査され、院長の許可を得て実施しています。

１．研究の対象

2020 年 3 月～2028 年 3 月に当院で凍結融解胚移植を実施された方

２．研究目的・方法・研究期間

1）研究目的

胚移植の手技は生殖補助医療においての最終工程であり、その成否は単に胚を子宮腔内に注入するだけではなく、「移植時の胚への刺激の軽減」や「子宮内膜・子宮筋層への物理的刺激の最小化」に大きく依存していると考えられます。しかし、胚移植カテーテル（胚移植に使用する器具）に移植胚を吸引する手技は培養士や医師の経験・個人技に依存しやすい側面があります。本研究は、胚移植カテーテルに移植胚を吸引する手技の改良および標準化を行うことで、その後の着床率、臨床妊娠率、および流産率に与える影響を検証することを目的としています。各検討項目（容量・空気量・洗浄等）をプロトコルとして厳格に標準化し、その有用性をデータで立証することは、当院における医療の質と再現性を飛躍的に高められると考えられます。また、「着床率（妊娠成立）」の向上のみならず、子宮環境の安定化を図ることで「流産率の低減（妊娠維持）」への寄与が期待されます。

2）研究方法

胚移植カテーテルに移植胚を吸引する手技および移植操作を標準化したプロトコルに従い実施します。

カテーテル内腔をあらかじめ専用の培養液で洗浄し、カテーテル内の気胞除去および内壁のコーティングを行います。

また、子宮内に胚を注入する際の圧力および子宮収縮の物理的誘発を最小限にするため、子宮腔内へ注入される培養液量を厳格に 8 $\mu\ell$ とします。

移植時には、経腹超音波ガイド下において、子宮底から 10~15㎜ の子宮腔中央部で約 2-3 秒かけてゆっくり押し出すことで内膜への衝撃を回避し、注入後 3~5 秒間の静置を経て緩やかにカテーテルを抜きます。
これら一連の精密化された手技を導入、改善することで子宮内に胚を注入した後に移植胚がカテーテル内に留まる事を防ぎ、子宮収縮の抑制、並びに着床率・臨床妊娠率の向上と流産率が低下するかを得られたデータから検証します。

3) 研究期間
倫理委員会承認日～2028 年 3 月 31 日

３．研究に用いる試料・情報の種類
情報：治療歴、出産歴、採卵時および胚移植時の診療情報、妊娠経過　等

４．外部への試料・情報の提供
外部機関への試料・情報の提供は行いません。

５．研究組織
研究責任者：まるた ART クリニック　副院長　　濱田　雄行

６．除外の申出・お問い合わせ先
試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。
本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
まるた ART クリニック
担当者：濱田　雄行
名古屋市千種区覚王山通 8-70-1 池下 ES ビル 2F・3F
電話：052-764-0010

７．利益相反

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。